

今年も8月下旬から稲刈りの光景を目にされた方も多かったでしょう。実りの秋、収穫の秋、四日市は、中心市街地を一步外に出ると田園地帯が広がっているまちです。

水田農地は四日市の地域資源です。日照不足と言われた今年の夏でしたが、コメの出来はどうか？

JAみえきた営農部の方も農家の方も「今年は米粒がやや小さく、反収量も少なかった」との声を聴きました。

耕作面積の4割を認定農業者が担っている

議員 5年ごとの統計データ

「農業センサス」によれば、現在、市内のコメ・麦などの耕作面積の約4割を70人の認定農業者が耕作を担っています。農業就労者の高齢化、後継者不足が言われ、担い手認定農業者も高齢化している。農業センサスの統計データをどうとらえ、市はどんな施策を講じる必要があると認識しているのか。

部長 地域農業を支えるためには、担い手を確保することが一番の課題と考える。市内の水田農家の平均耕作面積は約6000平方メートル程度ですが、安定した農業経営面積は約15ヘクタール程度と認識している。

再生産・持続可能な農業が必要

さらなる高齢化も想定されるので、農地を集約し、安定経営ができる規模の担い手農家を育成していくことが肝心であると考えます。また、新規就農者の育成、担い手農家の支援に努めたい。



生産者米価

議員 生産者米価は過去に1俵

(60キロ) 2万円超えの時代もあったが、最近では1万2000円前後です。これでは「コメづくって飯食えぬ」と農家の悲鳴が聞こえる。

再生産・持続可能な生産者米価はいくらぐらいと認識しているか。

廃止される戸別所得補償

議員 来年度から戸別所得補償

(経営安定交付金) が廃止される。代替策はいまだ見えていない。耕作放棄地の増大につながることを危惧する。廃止の影響、農政の動向について問う。

部長 交付金の廃止に伴い、農業者の収入が減少する。市としては、来年度以降も交付金の対象となる、麦・大豆、飼料用作物の作付などをこれまで以上に推奨し、経営の安定化に努めていきたい。

市の上乗せ助成金

菰野町の5分の1

議員 四日市市の農業支援で市

単独の上乗せは、新規農業支援・集団転作助成、企業参入支援など合わせても約3000万円ほどでしかない。転作の麦生産に対する市の上乗せは総額800万円、

「シルバーパス」のふるまひ

「住むにふさわしいまちづくり」

かとう議員は、2月の代表質問で「シルバーパスの発行はどうか」と提案したところ。市長答弁は「デマンド交通に着目している。鉄道駅・バス停が近いところでは、公共交通を活用していただくことが重要であり、シルバーパスについて、費用負担のあり方など含め検討していきたい」とをうけて、その後の市の検討状況、見解を問いました。

財政力率下の四日市市は高齢者になりにくい

議員 人口30万人規模の秋田

市・長野市・岐阜市などでも実施されている。大阪堺市は、財政力指数が0.84だが、65歳以上の市民がバスや電車を1回100円で利用できる「おでかけ応援制度」がある。自治体の権限と財源を活かして実施するかどうかだ。

部長 本市は、都市交通戦略で「自由に移動し、交流できる交通体系づくり」を掲げている。市民・行政・交通事業者の連携で鉄道・バスをこれまで以上に利用するよう働き掛けていく考えです。

麦交付金	平成28年度 10アール単価	
	四日市市	菰野町
面積	347ha	470ha
市町上乗せ	2300円	7000円
上乗せ総額	800万円	4000万円

(市農業振興課調べ)

菰野町の上乗せは総額4000万円と菰野町の5分の1ではない。

四日市の農業支援の本気度が問われる。

議員 2月の答弁では「検討してまいりたい」とのことであったが、その後検討しているのか。

部長 近年、さまざまな自治体でシルバーパスの取り組みが実施されている。本市としても他市の事例など調査を進めている。

議員 このまち、四日市の発展に貢献していただいた高齢者のみなさんに、「任んでいてよかった」と言えるまちにすることが自治体の責務だ。本市では、過去に75歳以上の方に年2000円の、バス・タクシー・浴場で利用できる「敬老サービスマン」が交付されていたが平成15年廃止された。

人口減少、高齢化社会で一番大切なことは、国や自治体が安心した暮らしを責任をもって保障することです。交通は、人と人の交流を図り、移動の確保だけでなくコミュニティを豊かにする。市長の言う「子育てするなら、教育するなら四日市」も結構だが、ぜひ、シルバーパスのあるまちへ検討を進めることを求める。

*デマンド交通利用者が電話などで予約する交通システム



かとう清助議員

記事に関するお問い合わせは Eメール watcosmos@cty-net.ne.jp